



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第25号

2021年9月13日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

9月13日の緒川小学校のSPさん

9月13日、この日はSPさんを含めた5人の学生さんが緒川小学校に来ていました。水野SP、相澤SP、今日が初参加の鶴田SP、そして大学や大学院の授業の関係で来ている中畠さん、竹内さんです。中畠さん、竹内さんは、夏休みにSPさんとして活動をしてきていました。さっそく再会ができ、嬉しかったです。

保健室の前を通ったら、水野SPと相澤SPの姿がありました。2人とも養護教諭を目指す学生さんです。「今日は保健室に3人も先生がいる！なんて手厚い！」と緒川小学校の先生方も話してくださいました。水野SPは活動3年目のベテランSPです。相澤SPは先日初めて来たばかりということで、引き継ぎをしてきていたようです。養護教諭の石田先生も「水野SP、引き継ぎしてくれていたんだよね。私が言う前に、これが出来るのがすごいよね、さすが。」と大絶賛でした。頼もしい先輩SPさんの姿……相澤SPも励みになったのではと思います。こうして現場で繋がっていく“学生文化”。SP活動の力です。質の高さが維持できるのも、こうした質の高いSPさんから質の高いSPさんへ、繋げているからだと思います。

今日が初参加の鶴田SPも奮闘していました。明るい鶴田SPは、さっそく子どもと目線を合わせて、笑顔で支援をしてきていました。そして、なんとその姿を中畠さんが見学をしていました。「今日は、授業の関係で“参観”をしなければならないです。僕もあの中に入りたいです。SP活動の時のように」と中畠さん。他のSPさんの様子を見ることもそうそう無い機会だったと思います。中畠さんのことですからきっと、もどかしさを感じながらもしっかりと見て学んでいたのではないかと思います。そのもどかしさ、また大学の授業が終わったらぜひSPさんとして存分に発散してくださいね。

大学院生の竹内さんは、この日、5年生の1クラスを任されていました。先日緒川小学校に伺った時には授業もしていました。専門の理科の実験の授業です。「たくさん準備したんだろうな。この準備量、すごいな」そんな竹内SPのパワーと想いが詰まった授業でした。姿を見るたびに、その背中が、雰囲気現場の先生に近づいているように感じます。すごい成長速度です。「この間の研究授業では思うようにいなくて、へこんでいました。でも、もう前を向いているんです。こういう人に、やっぱり先生になって欲しいですね」と、教務主任の鈴木先生も彼女の将来、そして教職の将来について笑顔で話してくださいました。

頼もしい東浦町のSPさん。どのSPさんも、生き生きと楽しそうに活動をしてきています。素敵な光景です。また見に行きます！

